

# 平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	情操教育推進事業						会計	款	項	目	大事	小事
							01	10	01	04	03	57
政 策	O3	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）						主管課	指導課			
施 策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実						主管課長	佐藤 智子			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小中学校児童生徒	意図	児童生徒の情操を養い、豊かな心情を培う。
事業内容	学校が意図的・計画的に企画する映画鑑賞、コンサート、観劇等を通し、児童生徒の情操を養い、豊かな心情を育てるよう支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成22年度に事業がスタートし、6年目となる。市内小中学校からの要望が多く、さまざまな活用方法を展開しようと試みてきた。その結果、多くの学校で定着した行事になりつつあり、児童生徒、保護者からも好評である。参加した児童生徒は、本物の芸術に触れることで、心豊かな時間を過ごすことができている。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名 称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	① 観劇参加数	2,391	4,362	3,764	人	↑↑↑	
	② 音楽鑑賞参加数	3,072	3,528	4,979	人	↑↑↑	
	③ その他参加数	597	0	691	人	→→	
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	学校が生の芸術に触れることができる機会を設けていられるので、情操教育の一端を担うことができ、児童生徒の豊かな心情が育ってきている。	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）					
事務事業のコスト	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成25年度は希望が市内の小中学校のほぼ半数からあり、観劇が5校、音楽鑑賞が5校、講演会が1校と多様であった。事業が5年目になった26年度は、観劇7校、音楽鑑賞6校であったが、希望する学校が多く、残り3校には、配分ができなかったため、予算の拡充を図った。27年度は、観劇6校、音楽鑑賞8校、講演会1校、計15校と前年度より2校増加したが、学校の実態を考慮しながら予算配当している。今後も、学校のニーズに応えながら、児童生徒の情操教育の充実に努める。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	1,500,000	1,800,000	210,000				
事業費（b）(円)	1,500,000	1,800,000	210,000				
うち一般財源	1,500,000	1,800,000	210,000				
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき			対象者の適切性
						A 対象者は適切である
総合評価	II 継 続	(事業を現状どおり継続すべき)				

### (2) 事務事業の業務改善について

① 今年度(H27)の改善計画	児童生徒の情操をより豊かにするために、学校が意図的・計画的に情操教育推進事業を企画し、推進する。	③ 取組の課題	情操教育推進事業の内容を充実させ、学校のニーズに応える。
② 今年度(H27)に実施した取組	今年度は15校で情操教育推進事業を実施したが、充実した取り組みを行うことができた。	④ 今後の改善計画	できるだけ市内の小・中学校に平等に配当できるよう予算を配当を進めること。